



Halloween 単語カードを利用した活動案 (2)

金井 さやか

以下の活動案は、英語クラスのイベントなどで実際に行い、比較的人数の多いクラスでも効果を実感できたものです。

イベント時はもちろん、英語教室、小学校での普通の活動にも取り入れられます。主な対象は小学生の児童ですが、単語やフレーズを工夫することで、さらに幅広い年齢で楽しめます。

【アクティビティ 2】

ハロウィーンでも楽しめる！

"How many?" BINGO

<ねらいと効果>

数を表す表現、特に数をたずねる疑問文と名詞の複数形に慣れます。

ゲームそのもので、繰り返し英文を口にする練習ができ、自然なリズムで言えるようになります。

<レベル>

低学年～高学年

<基本表現>

How many ~s do you have?

I have ~s. (単語は複数形)

<人数>

何人でも

<準備>

- 英語レベル、学年に応じたマス目のビンゴシートを人数分
- ハロウィン関連の提示用単語絵カード 10 種程度
- 数字を書いたカード 1 セット(数字のカードでは、学習させたい数字を取り上げる。たとえば「10、20、30、40…」や「80~100」、あるいは聞き取りの難しい「13、30、14、40」など。(クラスの規模に応じて、用紙サイズを選ぶ)

<進め方>

1. Speed Game(活動案(1) 参照)などで覚えた単語について、複数形と基本表現を教える。文の形で、単語と数字を全員で練習。2、3回のリピート練習の後は、先生は単語と数字のカードを提示するのみで、児童が文章の形で発話するようにする。

● 複数形の練習: pumpkins, spiders, bats, hats, cats….

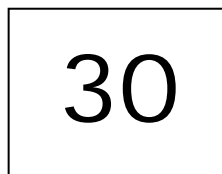
● 文の形で練習:

T:(単語カードを提示。たとえば、cat の場合)

Ss: How many cats do you have?

T:(数字のカードを提示。たとえば 30 の場合)

Ss: I have thirty cats.



2. ビンゴシートを配布。使う数字を好きなマスに記入させる。また、ビンゴのときに使うフレーズを教えてもよい。先生が提示した数字があったら “Yes!”、なければ “No!”、「リーチ」は “I’m set.” と言うなど。

※ どの数字を記入させるかについては、いくつかの方法があります。たとえば、マス数分の数字を教師が用意し、全員が同じ数字をランダムに書いてもいいし、あるいは「1～30」など範囲を限定し、子どもに好きな数を記入させてもいいでしょう。「はずれ」となる数字の数が多いほど、ビンゴは出にくくなり、実施に時間がかかるので注意が必要です。

3. ビンゴスタート。(練習のように、教師はカードを順に掲示するだけ。児童は、毎回カードを見て文を言い、その数字を探して印を付ける。)

(1) 教師は単語カードの中からランダムに 1 枚を選び、児童に見せる。児童が質問文を言う。

T:(単語カードを提示。たとえば、hat の場合)

Ss: How many hats do you have?

(2) 教師は数字カードの束からカードを 1 枚取り出し、児童に見せる。

T:(数字のカードを提示。たとえば 20 の場合)

Ss: I have twenty hats. (自分のシートに「20」があれば、印をつける)

※上記の方法は、児童の発話機会が多いのでおすすめです。ほかに、クラスを 2 チームに分けて、順に質問と答えを言うような形にもできます。